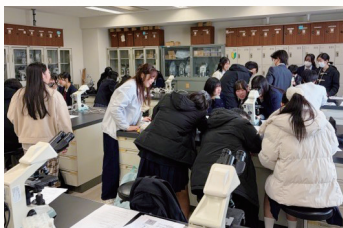


進路発見バスツアー（生命の不思議編）を実施しました

令和8年3月4日（水）、高校生のための『進路発見バスツアー』を実施しました。本ツアーは、卒業後の進路について選択肢を広げることを目的としており、今回は「生命の不思議」編として、32名の高校生が、島根大学の生物資源科学部と医学部を訪問しました。

松江キャンパスの生物資源科学部では、「ゾウリムシで探る生命の不思議」というタイトルで、生物の教科書でよく登場する単細胞生物の摂食・消化・排泄の仕組みについて児玉有紀教授からミニ講義を受けた後、顕微鏡による観察実習とラボ見学が行われました。



出雲キャンパスの医学部看護学科では、古賀美紀教授のリードで、学科教員と看護を学ぶ学生から、看護学と新生児・小児看護の仕事について教わり、実際に赤ちゃん人形を用いた沐浴を体験しながら和やかな交流が図られました。

医学部医学科では、佐野千晶教授を中心とした複数の教員に「医師のお仕事」について説明を受けた後、「医学部ぶらり散歩」では英語学習支援室eクリニックや病理実習室をはじめ、病棟と

外来を3グループに分かれて見学しました。

ツアーの案内はSUN'IN Girlsの3名が務め、学食でのランチタイムには、「いつ進路決定をしたのか」「志望学部に行くにはどんな勉強をしたら良いか」など、高校生がSUN'IN Girlsに多くの質問を投げかけ、活発な交流が行われました。

丸1日、ロールモデルとなりうる自然科学・医学の研究者及び学生との出会い、そして貴重な体験活動満載のバスツアーとなり、参加した高校生たちは、2つの学部から生命に関わる学びの面白さが理解できたこと、島根大学に入りたいのでオープンキャンパスにぜひ行きたいです！など、意欲的な感想を口々に語っていました。



SUN'IN Girlsの活躍

SUN'IN Girlsは理系の女子学生（大学生、大学院生）による組織で、女子中高生に対し、理系分野の魅力や楽しさを伝える「身近なお姉さん」としてロールモデルとなり、理系進路や研究キャリアの選択を支援するための様々な活動を行っています。

しまね大交流会2025に参加

令和7年11月1日（土）、くにびきメッセで「しまね大交流会2025」が開催され、島根大学ダイバーシティ推進室は「理系進学に興味がある女子あつまれ〜」というテーマでブースを出展しました。

ブースでは、島根県立松江南高等学校2年生10名が「未来創造リサーチ&アクションプログラム（RAP）応用A」の授業で取り組んだ3つのテーマで研究成果を発表し、令和7年春からほぼ毎週この授業

に加わり、生徒たちの理科研究を支援しているSUN'IN Girls 4名がサポートを務めました。

どの研究も興味深く、工夫に富んだ内容で、多くの来場者が足を止め、質問を寄せてくださいました。年一回開催の大交流会での発表は、高校生・大学生双方にとって、非常に貴重な経験となりました。



Lunch&Learn –ランチでつながる研究女子会–

令和7年12月16日(火)の昼休みに「第5回 SUN'IN Girls MEET UP ～ランチでつながる研究女子会～」を開催しました。

今回は、島根大学に在籍する研究者 Hanna Wenzelさんをお招きし、さらに次世代たたら協創センター (NEXTA) の客員教授でもあるCathie Rae先生にもご参加いただきました。

Hannaさんの講演テーマは「Studies and research in disorder」。これまでの氷河研究から始まり、現在は非晶質材料の構造解析に取り組む研究者として、国際的なキャリアを積み重ねてきた歩みを紹介してくださいました。キャリアの中で多くの挑戦や意思決定を繰り返しながら、研究を続ける姿は非常に力強く、また短時間ながら活発な意見交換が行われ参加者を魅了しました。

最後に、HannaさんからSUN'IN Girlsへのメッセージとして、「興味を持つことは良いこと！自分の境界を少し広げてみよう」「失敗や計画変更も研究の一部として前向きに捉えよう！」

この言葉は、参加した学生たちにとって大きな励みとなりました。



さぼっとカフェ

第106回「栗原監事と意見交換会(出雲キャンパス)」

令和7年10月7日(火)、出雲キャンパスにて第106回さぼっとカフェを開催しました。今回は「栗原監事との意見交換会」と題し、栗原昌子監事をお迎えし、出雲キャンパスの教職員40名が抱える現状や課題について、活発な意見交換が行われました。

参加者からは、女性医師の出産・育児後の支援やキャリア形成、病後児保育や学童保育の充実、メンタルヘルス支援などさまざまな課題が挙げられ、それぞれに率直な意見が寄せられました。

これらの声に対し、栗原監事からは豊富にご経験を通しての種々のアドバイスや励ましをいただき、また同席の金山ダイバーシティ推進室長、河野副学長 (SDGs・ダイバーシティ担当)、そして川上ワークライフバランス支援室長からは、ダイバーシティ推進室とワークライフバランス支援室との連携を一層強化し、具体的な取り組みを進めていきたいという決意が示されました。

また、「島根大学附属病院や医学部で働くことの魅力を高める取り

組みが必要」との意見もあり、今後の施策への示唆となる貴重な意見交換の場となりました。



拡大版第107回「私の未来のつくりかた～島根で描く女性のキャリア～」

令和7年10月20日(月)松江キャンパスにて、第107回さぼっとカフェを開催しました。今回は拡大版として、島根県中小企業家同友会女性部会との共同主催で実施し、約40名の参加がありました。

ゲストには、島根県内で起業された「しまね・和心美人」代表の中島会実氏と、一般社員から役員へと昇進された「株式会社 platinum」常務取締役の渡部祐美氏をお迎えし、それぞれのキャリアや働き方について、具体的な経験を交えながらお話しくださいました。

お二人からは「島根だからこそできることがたくさんある」「身近なロールモデルとして、相談しやすい先輩になりたい」「好きなことを通じて島根を元気にしたい」など、心に響く言葉を多数いただきました。

参加した学生からは「島根にこんな企業があるとは知らなかった。地元に戻ることしか考えていなかったが、島根の企業についても情報収集したい」と積極的な意見が寄せられました。

また、カフェ終了後には会場を移して懇親会を開催しました。参加学生からは、「就活に向けて何か参考になるのでは」と思い参加した。これまで給与や福利厚生などの条件ばかり見ていたが、皆さんが誇りを持って仕事に取り組まれている姿に感動した。就職がゴールではなく、その先のキャリアを見据えて就活を進めることが大切

だと気づいた。」という感想もあり、参加者にとって大変有意義な時間となりました。

なお、島根県中小企業家同友会の皆様からは、今後も県内の大学生や高専生に向けて、島根での未来を描く機会を提供していきたいとのお話をいただいています。身近なロールモデルを見つけるきっかけとなるよう、今後も取り組みを続けてまいります。



SAN'INご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワークの構築や、研究アイデアのひらめき、新たな共同研究の創出につながる「場」づくりを目的として、「ご縁ネットミーティング」を開催しています。このミーティングでは、メンバーが自身の研究を中心に話題を提供し、それをもとに参加者同士でディスカッションを行うことで、学び合いながら交流を深める企画を実施しています。



第70回 Cathie Rae先生との研究発表会&相談会研究者懇談会

令和7年12月16日(火)、ケンブリッジ大学教授であり、次世代たたら協創センター(NEXTA)の客員教授でもあるCathie Rae先生をお招きし、「第70回ご縁ネットミーティング」を開催しました。研究発表会には10名が参加し、3名の若手女性研究者(医学部救急医学講座助教 佐藤利栄先生、自然科学研究科修士課程 木下愛美さん、Erika Vivas Cruzさん)が、英語による発表を行いました。

発表後の質疑応答では、専門分野の違いを反映した多様な視点から、活発な質問や意見が交わされました。熱心な議論を通じて議論が一段と深まり、発表者にとって研究内容をブラッシュアップする

大変有意義な時間となりました。

また夕刻からは8名が参加し、夕食をとりながら懇親会を行いました。参加者は、イギリスやドイツ、日本、米国、スウェーデン、ノルウェーなど多様な国での経験を踏まえ、医療現場の状況や自身のキャリアについて意見交換を行いました。国や制度は異なるものの、女性研究者が直面する困難や仕事と家庭の両立に関する課題には共通点が多く、研究環境をより良くしていくために、どのように制度を整えていくか、また研究者自身が周囲を巻き込みながら活躍の場を広げていくことの重要性を改めて認識する機会となりました。

刊行物紹介

SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク 年次報告書(令和6年度)

令和6年4月1日から令和7年3月31日に行った、SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの活動をまとめた年次報告書を作成・発行をしました。SAN'INダイバーシティ推進ネットワークホームページ/刊行物・資料/データ資料・報告書に掲載していますのでご覧ください。

(掲載場所)

<https://diversity.shimane-u.ac.jp/publications/data/>



「性の多様性に関する基本方針と対応ガイドブック」の改訂

令和7年11月1日、令和4年10月に発行した「性の多様性に関する基本方針と対応ガイドブック」について、内容を更新した改訂版を発行しました。本学では性の多様性に配慮した環境を整備していますが、本ガイドブックでは大学での具体的な対応について、島根大学の方針や考え、対応する窓口担当者が留意すべきこと、学生・教職員本人が支援を受けるために押さえておきたいこと等を記載しています。

DVのない社会をめざして

内閣府は、毎年11月12日から25日までの2週間を「女性に対する暴力をなくす運動」期間と定めています。

この期間中、松江市の取組として「DVのない社会をめざして」メッセージ入りオリジナルトイレットペーパーが市内の一部の公共機関、大学等に配布され、本学では学生が多く利用しているトイレに置き周知しました。

各機関の取組

「ジェンダー～性を科学する～多様な性と生」 公開授業

令和7年12月12日に保健管理センターとダイバーシティ推進室が主催し、「ジェンダー～性を科学する～多様な性と生」の公開授業を開催しました。当日は、講師の佐藤みどりさんが248名の学生に、「性の多様性についての基礎知識」や、ご自身の生い立ちや中高生時代の悩み、カミングアウトの状況などについてお話しされました。受講生からは「もしカミングアウトを受けることがあれば、相手を傷つけていないか意識的に確かめ、無意識の偏見や自分の考えだけで相手を決めつけないようにしたい。」等の感想が寄せられました。



特別選抜入試実施に伴う託児サービスの実施

ダイバーシティ推進室では、毎年、休日に実施される入試業務に合わせて、託児サービスを行っています。令和7年度に実施した特別選抜入試業務に伴い、当日入試業務に携わる職員のお子様の託児を行いました。



職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催

令和7年11月20日（木）、本校学生を対象に、職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催しました。この講演会は、「研究職」を志す学生に高専教員という職業に興味を持ってもらい、博士課程への進学を含めたキャリア形成の一助とするために開催したものです。



2名の教員が講演し、電子制御工学科鈴木聖弥助教からは、高校時代～大学院博士課程までの自身の進路決定の経緯や、就職活動の様子、現在の仕事内容について、環境・建設工学科筏津春花助教からは、女性研究者・技術者講演会として、大学院への進学や就職について考えた時の悩みや、自身の研究テーマ、現在の1日の過ごし方についての講演がありました。

また、人事・労務係担当者から高専教員の給与や休暇等の制度に関する説明も行われました。

当日は5名の参加者があり、参加者からは「博士課程と仕事の両立はどれくらい大変か?」、「就職先としてどのような職場を考えていたか?」など様々な質問があり、講演後も意見交換する様子が見られました。



「米子高専生のための進路研究セミナー」を開催

令和7年12月20日（土）、米子コンベンションセンターにて「米子高専生のための進路研究セミナー」を開催しました。企業212社、大学・大学院17機関、地元自治体等4団体の計233ブースが出展し、本科3・4年生、専攻科1年生を中心に、学生・保護者あわせて約400名が参加しました。

本セミナーの大きな特色の一つは、各分野で活躍する卒業と直接交流できることです。企業ブースでは、米子高専出身の先輩方が、自身の仕事内容や就職活動の経験、高専で学んだことが社会でどのように活かされているかを後輩たちに伝えていました。実際に高専卒業生が第一線で活躍する姿に触れることは、学生にとって将来像を具体的に描く貴重な機会となりました。

女子学生にとって、理工系分野で活躍する女性卒業生との出会いは、進路選択を考えるうえで大きな後押しとなります。ものづくり企業や研究開発職、建設・情報・公務員など、多様なフィールドで働く先輩方の話を聞くことで、「自分にもできる」「長く働ける環境がある」といった前向きなイメージを持つ様子が見られました。

また、地元企業78社に加え、鳥取県、米子市、倉吉市、安来市による地元就職応援コーナーも設けられ、地域で働く魅力や暮らしやすさについて知る機会にもなりました。ライブイベントと仕事を両立しながら地域で活躍する将来像を考えるうえで、有意義な機会となりました。



令和7年度ダイバーシティ研修会を開催

令和8年2月26日（木）に、令和7年度ダイバーシティ研修会を開催しました。

この研修会は、本校教職員のダイバーシティに関する理解を深め、本校でのダイバーシティ推進の機運向上に結び付けることを目的に毎年開催しているものです。



今年度は、独立行政法人国立高等専門学校機構理事、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構・学際情報学府教授横山広美氏を講師にお迎えし、「なぜ理系に女性が少ないのか」と題して、国立高等専門学校機構のダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン目標、理系に女性が少ない理由、女性教員を増やす方法等についての講演がありました。

当日は57名の参加者があり、「理系に女性が少ない理由を、グラフ等を用いてわかりやすく解説していただき、自身の潜在意識を測るIATや教員公募で女性を採用しやすくするマックスプランク方式など、大変興味深い話を聞くことができました。」「なかなか聞くことのできない社会学分野の研究内容をわかりやすくお伝えいただき、大変興味深く聞かせていただきました。」といった感想が聞かれました。

米子高専放送部が令和7年度国立高等専門学校機構学生表彰 理事長特別表彰を受賞

米子高専放送部は令和7年度国立高等専門学校機構 理事長特別表彰を受賞し、令和8年3月24日（火）に機構本部八王子オフィスで開催された授与式にて、部長の上阪彰子さんが表彰状を受け取りました。高校放送部における国内最大規模の大会、NHK杯全国高校放送コンテスト（Nコン）創作ラジオドラマ部門での優勝、ニューヨークで開催された全米高校映画祭AAHSFF2025への日本代表としての出場、高校生のためのeiga worldcup2025での最優秀女子演技賞をはじめとした上位入賞が評価されての受賞でした。



令和7年度のNコンには、地区予選を含め全国1,357校が参加し、創作ラジオドラマ部門には全国から544作品の応募がありました。全国大会では、地区予選を勝ち抜いた98作品が出場し、本校の作品「弾丸の行方は」が高く評価され、優勝しました。作品制作に携わった11名の学生は、各々の得意分野を活かして脚本、演技、編集、音響、進行管理などの役割をそれぞれが担いました。学年を超えた協力体制のもと、1年生が主役を務めるなど、経験年数にとらわれず挑戦できる雰囲気があり、その結果、多様な視点や感性が作品に反映され、完成度の高いドラマへとつながりました。

作品は、NHKが運営するWEBサイト「NコンWEB」にて令和8年7月末まで公開されています。

